

足立健康友の会

かばら支部ニユース

第47号
2012年6月21日
☎: 3605-5594
<http://kabara-tomonokai.kenwa.or.jp/>

新緑の光溢れる佐倉を巡り ました かばら歩こう会 14名参加

五月二十八日十時の京成佐倉駅から市街地の先に見える、小高い緑の森は、明るい日差しの下に、輝いて見えました。歩こう会十四名は観光案内所でもらったマップをたよりに、佐倉城址公園を目指しました。

照り返しの強い県道から、城址に入る登りにかかると、一気に緑が頭上をおおい、暑さを押さえてくれます。若葉や若芽の明るい黄緑から、常緑樹の深緑まで、緑の世界が広がっていました。



て築造された平山城で、水堀り、空堀、土塁で守りを固め、江戸城からの避難所として歴代城主は、幕府の老中職に就いた大名によって引き継がれ、「老中の城」とも呼



ばれていました。歩いて廻るとその広さが初めて実感できます。堀田まさよしとハリスの銅像の前で集合写真を撮り、その先の本丸跡は緑一面の光の広場でした。ここまで来て、おながが空いたと言いつつ出しましたが、店は無く、駅の方



へ戻り、三軒の武家屋敷とひよどり坂を回り、昼食を食べました。和食とてんぷらそばが千円で美味しかったと、満足そうでした。午後は、「佐倉草笛の丘」のバラ園が満開らしいというので、駅前からタクシーに分乗し、ローズ・フェスティバルの会場へ行きました。

丘の傾斜を利用したバラ園は、白から紫系の淡い色が多く、赤や黄の原色は少なめで、より自然に近く配置されて、緑の木々を背景に目に心地よい風景でした。お茶で休憩し、語らい、バスにて駅へ向かう帰り道、田植えが終わわり、水の張った一面の田んぼの真ん中を走っていく風景から、千葉県の奥深い自然を感じ、子供時代を思い出し、緑をたっぷり満喫できた散歩みちでした。国立歴史民族博物館や資料館、順天堂記念館、その他行きたい所が多くあり、奥深い佐倉でした。

報告 田中 英人

青空健康チェック 菖蒲沼公園で実施

去る5月13日(日)第4回「足立東部地区ふれあい祭」が菖蒲沼公園で開催されました。はつきりしない天気が続いていましたが、この日は天気にも恵まれ、会場は

あふれる人々にぎわいました。



公園中心にある噴水の周りをミニSLがにぎやかに子供たちを乗せて走りまわっています。ステージでは太鼓の音が威勢よく響き「祭り」の始まりを告げます。

私たちが担当した「健康チェック」はステージに近く、人の流れも多い所でした。中には横目で通り過ぎようとする人に、こちらから声をかけると立ち寄ってくれる人。しばらく様子見をしていた人が体脂肪に「挑戦する」と駆け寄ってくるなど様々なドラマがありました。

結局、この日の人出を反映して77人も人達が「健康チェック」を受けました。

蒲原診療所の看護師さん、歯科の衛生士さん、お疲れ様でした。

担当 美田恵子

足立健康友の会第11回総会報告

5月13日に北千住介護福祉専門学校において総会が開かれました。

健和会平松専務から、東日本大震災の支援活動を通して民医連と共同組織の必要性を痛感した。12年度は健和会グループ職員の全員が友の会へ入会できるよう具体化を図りたいと決意を表明しました。

大島都議会議員は、税と社会保障の一体改革に命を懸けると言っていたが命を懸けるものが違うのではないかと。また、原発の原因究明や安全性も確認されないのに再稼働に必死になっている。そんな



な中で市民団体が「原発の是非を都民投票で行う」条例の直接請求が32万人の署名を付けて都知事に提出されました。共産党は賛成で6月議会で審議されます。と紹介しました。

総会では、11年度の活動報告を行い、そのなかでかばら支部が仲間増やして職員との共同行動や健康講座・サークル活動等と連携して4年連続で年間目標を達成したことが報告されました。他の支部もかばら支部の経験に学び職員と数回の懇談会や地域訪問行動など行い昨年より前進したことが報告されました。

第二部で東京民医連の河内さんが講演を行いました。東日本大震災は阪神淡路大震災を上回る災害被害が生まれてしまった。地震津波被害はどこに起きたのかと問かけて、高齢化率が高い地域、医療と医師過疎化の地域で起きた。そして1年が過ぎて復興どころか



医療過疎から医療空白地域になってしまった。と話されました。小泉内閣が構造改革を唱え雇用関係をぶち壊し、不安定労働者を大量に作り、非正規保険証群の6割が保険がない状態に置かれています。野田政権が「税と社会保障の一体改革」と言いながら消費税を10%に増税しさらに収入の低い庶民に負担を強めようとしています。

生活と健康を守るためますます共同組織を大きくする必要がありますが高まっている。あらゆる活動を共同組織と共同して行い大きくたよりになる友の会としたい。みなさんへのお願いは住民全世帯を対象とした運動の検討と地域の団体との協力をひろげていただきたいと結びました。

その後、懇親会が開かれ支部以外の人と交流しました。今回の大会で勇退した米倉会長に感謝の花束が贈られました。

報告 渡辺 政次

新役員・自己紹介

関口萌子さん

私は北海道の留萌で生まれ、その昔、ニシン漁で栄えた町です。今は足立区神明南の住民で

す。かばらの友の会に入会したのは10年ほど前。蒲原診療所に通院を始めたのもその頃です。昨年からは私の住む街の友の会員10軒ほどを受け持ち「下町の健康」を配り始めました。その中で出きるだけ声をかけるようにしています。みなさんは「健康の問題」や



「暮らし向き」のことに関心があり、つい話し込んでしまうこともあります。

この間、友の会の行事には「歩こう会」や「蒲原健康講座」「七福神巡り」などに参加して来ました。今年から役員として新たな出発になります。蒲原診療所は医療スタッフのみなさんが患者さんの目線で一緒に考え、行動してくれるので大変、好感が持てます。そのこととは回りの蒲原診療所（歯科診療所を含む）を知らない住民に何かあることに伝える様になっています。これからは友の会役員として、地域の皆さんとの交流を今まで以上にさかんにして健康を気遣い合う

友の会をめざして行きたいと思っています。会員のみなさん、よろしくお願ひします。

支部総会での報告

すみれ班

金子さんのお宅を会場に毎月、1回すみれ班の班会の開催をめざして来ました。

班会では役員の亀井さんの手ほどきで手芸作品作りにはげんでいます。おしゃべりは井戸端会議のように楽しい時間です。この場所に顔を出すと日頃のストレス解消にもなります。

報告 中尾千恵子

書道サークル

かばら支部の書道サークルは発足して10数年になります。これまで蒲原診療所の玄関ホールや行事の度に作品を展示しています。

書道サークルは毎月、第2・第4土曜日の午後3時から5時まで診療所2階の食堂を会場に開催しています。書道の師範は矢作克雲先生。先生への月謝として毎月2千円の会費を頂いていますが、稽古の合間のおしゃべりも楽しいものがあります。興味がありましたら、ぜひ、顔を出して見てくださいます。

報告 坂井よう子